



# 木 木 木

千葉県TEACCHプログラム研究会  
2021年6月4日(金)第108号

「森」字・佐々木正美  
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部  
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557  
ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

## 令和3年度 20年目の研究会

千葉県TEACCHプログラム研究会

代表 堀子 栄

令和3年も折り返しの6月となります。雨が多いこの時期、青、紫、ピンク、そして白と紫陽花の花が各家庭の庭から顔を出しています。紫陽花には、花言葉として「移り気」「冷酷」という意味もあるようですが、「団らん」「和気あいあい」「家族」の意味もあるようです。コロナ禍のこのような状況の中では、後者の意味を大事にしたいものですね。

さて、今年度、千葉県TEACCHプログラム研究会が20年目を迎えました。これは、県教育委員会、福祉関係の行政関係の皆様、等多くの皆様のご理解、ご支援の賜物と御礼申し上げます。また、研究会を支えてくださったスタッフの皆様、会員の皆様に感謝申し上げます。今年度も、コロナの影響を踏まえて、研究会においては、対面式での研修会を控え、オンラインでの研修会を早い段階で決定し、講師の先生方のご協力のもと実施できる運びとなりました。オンラインの研修は、これまで対面式では参加できなかった方々にも参加いただくことができ、新しい研究会の在り方を考える機会につながっているようにも思います。また、特別支援学校の校長会や教育委員会等を通じて広報させてもいただきました。会員や研修会への参加者が増えていきますことを祈念するところです。

話は変わりますが、令和3年1月26日、文部科学省の答申として「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が示されました。急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力について次のように説明されています。社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」が到来し、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」に、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であるとされています。このことは、障害がある人も障害がない人も、全ての人に当てはまる内容であり、TEACCHプログラム研究会が目指し、進めてきている考え方とも重なりうる内容であると思います。この答申は、「全ての子供たちの可能性」ということで、様々な特性の

ある子供たちにも踏み込んだものとなっています。自閉症に対する理解が進み、教育における後押しになるものでしょう。引き続きTEACCHプログラムの考えをどの学校においても、どの職場においても、どの施設においても当たり前のように進められるようにすることに力を注ぎたいと考えています。

最後になりましたが、コロナ禍において、全ての人々のために支援してくださっている医療関係者の皆さま、生活を支えてくださっている多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

## 深い理解と適切な支援の継続のために

前千葉県TEACCHプログラム研究会

代表 西村 則子

今年度より、代表を前特別支援流山高等学園校長 堀子 榮先生に引き継いでいただくことにいたしました。私は、千葉県TEACCHプログラム研究会の発足当時からかわらせていただいていたのですが、ここ数年、学校の教職員の参加が減ったことに憂慮しておりました。学校が忙しいこと、学校での研修が充実してきたこと等があると思いますが、TEACCHプログラムでは学校教育をととても大事にしているのです。校外の研修に参加して多くのことを学ぶことは必要なことです。理解の深い堀子先生のお力を借りることで、さらに充実させていければと思います、代表を引き継いでいただくことにいたしました。

私にTEACCHプログラムを教えてくださいましたのは、初代代表の藤崎 昇先生でした。藤崎先生は、TEACCHを知ってから過去に関わった自閉症の人たちへの罪滅ぼしだとおっしゃられて、定年退職されてからも熱心にTEACCHを広めてくださっていました。私も藤崎先生からTEACCHを教えてくださいまして、子どもたちのパニックを理解できずに戦ってきた自分の過ちに気づき、自閉症を正しく理解して適切な支援をするためにTEACCHを学び続けようと思い、研究会の立ち上げに参加いたしました。今年の1月、藤崎先生がご逝去され、本当に残念でたまりません。温かいまなざしで千葉県に自閉症の人たちへの正しい理解と適切な支援を広めてくださった先生に、心より感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

研究会が発足し、スーパーバイザーの安倍陽子先生のご尽力で、千葉県TEACCHプログラム研究会でも、日本にTEACCHを紹介してくださった佐々木正美先生に何度もご講演いただくことができました。自閉症カンファレンスでは、自閉症の原因を親の育て方という考え方を否定して正しい理解を広めたショプラー先生からもお話を伺うことができました。ショプラー先生、佐々木先生、藤崎先生ともに鬼籍に入られましたが、先生方が教えてくださいました自閉症の人たちへの正しい理解と適切な支援が当たり前に行えるようにしていくために、今後も研修を継続させていくことが必要です。昨年度は、新型コロナウイルス感染のためにセミナーを中止させていただきましたが、今年度は感染予防対策をとっての研修になります。是非、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。今後とも引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

## 今回のセミナー講師「諏訪利明」先生の著書御紹介



特別支援教育をすすめる本 1 幼稚園・保育園 2 小学校  
こんなとき、どうする？ 発達障害のある子への支援  
アスペルガー症候群（高機能自閉症）、ADHDを中心に  
安倍陽子、諏訪利明編 ミネルヴァ書房、2009.3

わが子が発達障害と診断されたら  
発達障害のある子を育てる楽しみを見つけるまで  
佐々木正美編著 諏訪利明、日戸由刈著  
（あんしん子育てすこやか保育ライブラリー、special）  
すばる舎、2011.12



TEACCHプログラムに基づく自閉症児・者のための  
自立課題アイデア集 身近な材料を活かす95例  
林大輔著 諏訪利明監修 中央法規出版、2019.3



ふしぎだね!? 自閉症のおともだち 諏訪利明、安倍陽子編  
（発達と障害を考える本/内山登紀夫監修、1）  
ミネルヴァ書房、2019.9新版

ふしぎだね!? アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち  
安倍陽子、諏訪利明編（発達と障害を考える本/内山 登紀夫監修、2）  
ミネルヴァ書房、2019.9新版

## 令和3年度 TEACCHプログラム研究会 第2回連続セミナーのお知らせ

配信期間：7月2日（金）～7月25日（日）

視聴日時：7月3日（土）14：00～15：30 ※6月25日（金）視聴申込締切

視聴場所：千葉県教育会館203会議室

演 題：「自閉症の生涯（仮題）」

講 師：志賀 利一 氏（社会福祉法人 横浜やまびこの里 相談支援事業部長

※次回講師、志賀 利一先生の御紹介

大学卒業後、財団法人神奈川県児童医療福祉財団小児療育相談センター、社会福祉法人電機神奈川福祉センター、独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園勤務を経て、現職。

強度行動障害支援、障害者虐待防止法の現状と課題、発達障害者の切れ目のない支援等、国の障害施策に関連する内容に関する調査研究ならびに研修の実施などで広く活躍

～監修「知的障害・自閉症のある人への行動障害支援に役立つアイデア集65例」より引用抜粋～

### （編集後記）

令和2年2月27日の臨時休校要請や4月7日の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言、その後の感染拡大の状況を受けて、昨年度の千葉県TEACCHプログラム研究会のセミナーは全て中止とさせていただきます。

この1年で、日常におけるマスク着用や手洗い、換気や消毒の徹底、黙食等、生活様式も変化しました。また、勤務体系や会議・研修の在り方等も大きく変化を遂げました。テレワークやzoomによる同時双方向型会議、非同期型オンデマンド研修等が当たり前の社会になりつつあります。

令和3年度の千葉県TEACCHプログラム研究会のセミナーは、非同期型オンデマンド研修で実施する運びとなりました。今年度、皆様との勉強会が再開できますこと嬉しく思います。堀子新代表の下、自閉症のある方への理解・啓発を更に進めていきたいと強く感じました。よろしくお願いいたします。（山中）